

仕事 図鑑

CASE 01

株式会社逢隈製作所（巨理郡巨理町）

製造部

宍戸 啓佑さん（38歳）

Shishido Keisuke



材料を念入りにチェック



鉄のプレートを手動グラインダーで面取りし、仕上げる



材料を天井クレーンで吊り下げて運ぶ



昨日より一つでも成長する今日 憧れの溶接職人へ一歩一歩前進

手に職を持つことが誇りだという宍戸さん。

広大な敷地に新工場 巨大構造物を製造・加工

巨理町「巨理中央工業団地」内に9999㎡という広大な敷地を持つ株式会社逢隈製作所。鉄骨や橋梁などの鉄鋼加工、土木建築用金物の加工などが主な品目で、タンクなど非常に大きな鋼構造物工事を得意としており工場内外には人の何倍もある巨大な鉄製の柱やプレートが大量に置かれています。1981年創業の歴史ある企業であり、2020年に現在の工業団地へ移転し、より広く明るく働きやすい環境が整いました。

「手に職」に憧れ転職 職人の真剣なまなざしに感銘

工場内へ入ると、高い天井からクレーンがいくつもぶら下がり、材料を運び込むトラックがゆくり走り回っていました。先輩の指導を受けながら溶接を行っているのが、宍戸啓佑さん。まったく異なる業界から転職して2年目、38歳です。

「自分が行った材料の仮付けが数ミリずれることで次の工程に不具合が起きたり、自分が溶接した部分に小さな空洞ができてくるのに気づかず先輩が直してくれたり、毎日のように失敗がありました。落ち込んだり、そんな自分にプレッシャーをかけたりと葛藤の日々……。それでも頑張ろうと思えたのは「うまくない」という気持ちと、ちょっとした合間に先輩が話しかけてくれる雑談に心が和んだからでした。

安全管理は最優先 「視野広く・要領よく」が課題

厳しく注意されるのは、作業でのミスよりも安全管理を怠ってしまった時。「安全は何よ

りも優先、それほどこの仕事には危険が伴います」と。宍戸さんの表情も引き締まります。ヒヤリとしたのは、何トンもの重さの材料を搬入する際にクレーンの操作が甘く、振り子のようには振れて鉄材が壁に接触したこと。万が一、人に当たってあれば大きな事故につながるため「絶対にあってはいけないことで、厳しく注意されました」。

会社概要

株式会社逢隈製作所

所在地 〒989-2324 巨理郡巨理町逢隈高屋字堂田42-6

TEL 0223-34-6917

URL <https://www.ookuma-seisakusyo.co.jp>

代表 代表取締役 朝倉 準之

設立 1981年3月

従業員数 25人 (2023年10月現在)



健康経営優良法人認定！ 「社員の健康こそが企業を支える」 トップの強い思いで、健康への意識が浸透



自由に使えるマッサージチェアを休憩室に設置

健康経営優良法人認定制度は、経済産業省が健康経営を普及促進する取り組みの中で、特に優良な健康経営を実践する企業・法人を顕彰する制度。逢隈製作所は、経営的な視点で従業員の健康管理をとらえた戦略的な取り組みを評価され、2020年から「健康経営優良法人（中規模法人部門）」に認定されています。

その根底にあるのは、「従業員の健康なくして企業の成長はない」という強い思い。朝倉準之社長は「当社のものづくりは、どの工程もすべて職人の腕にかかっている。従業員の健康管理やけが防止は、経営戦略の中でも最優先事項です」と語り、重要視しています。定期健康診断はもちろん、日頃から血管年齢の測定や栄養チェック、メンタルヘルスチェック等の取り組みを行っています。大場國衛専務は「特に栄養チェックを行うようになってから、食事や飲み物に気を使う人が増えた」と効果を実感していると話します。また以前から腰痛を訴える従業員が多いことから、休憩室にマッサージチェアを導入して自由に使えるようにし好評を得ています。さらに業務の効率化に全社で取り組み、できる限り定時退社を習慣づけることで、従業員の休息・休暇を確保し疲労の蓄積を防いでけが防止につながってきました。

思うようにできない自分に歯がゆさ 葛藤の中で一歩ずつでも成長を

念願のものづくり業界に就職したものの、初めての工場勤務に当初は「不安しかなかった」と話す宍戸さん。空調の効いた店舗内で販売をしていた前職から、暑さも寒さもダイレクトに感じる工場での作業は、体力的にきつく慣れるのに苦労しました。図面の指示通りに材料を組み立てるのが最初の仕事でしたが、飛び交う用語も図面の見方もほとんど分からない状態でした。忙しく働く先輩のわずかな時間の隙を見つけては、勇気を出して質問し少しずつ覚えていきました。常に自分に言い聞かせていたのは「昨日より一つでも成長する今日」。それは前職時代からの「おまじない」、自分を励ます言葉でした。

の仕事も面白いけれど、手に職をつけることに憧れたことで転職を決意したそう。子どもの頃から、発泡スチロールや木の端材を削って生き物や車を作るほど工作が好きだったことから、製造業を希望。知人から逢隈製作所で求人があることを聞き、工場見学に行きました。

生まれ育った町にある会社ですが、実は存在を知らなかったという宍戸さん。見学時に工場の広さと鉄プレートなど材料の大きさにまず驚き、職人たちの真剣な表情に心を動かされます。「緊張感の理由は後になって分かりました。命の危険さえ伴う仕事だということ、あれほど大きな構造物を作るのにもミミリ、2ミミリを合わせる緻密さが求められることです」。ものづくりの現場の「かつこよさ」に憧れ、すぐ入社を決めたといいます。



上司の声

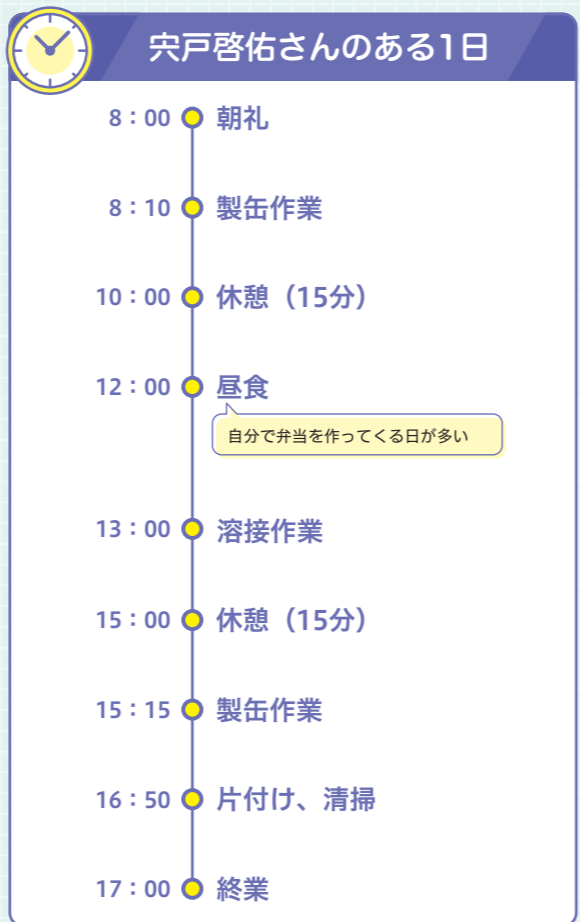


取締役
統括工場長
齋藤 忍さん

先輩の作業を見て“盗んだ”職人技を“自分のもの”に
創意工夫で成長し、若手を育てる存在に

まったく異なる業界から、よく入ってきてくれたなと思いました。長く社会経験を積んでいるゆえに難しいこともあったと思いますが、現場の先輩の言葉を大変素直に受け入れ、吸収して、仕事を覚えていってくれています。

溶接志望ですが、今はまだその前段階の製缶作業をしっかり覚えながら、少しずつ溶接のやり方を習得しているところです。今後資格を取得し主力として活躍してくれることを期待します。職人の世界ですからやはり「見て覚える」ということが多くなります。しかしお手本となる職人の技を見て盗んでも、その通りコピーするだけでは自分のものになりません。真似から入っても、自分なりの工夫を加え自分の体になじむ方法を創り上げていくことが大切です。とても優しい人柄で、彼がいると空気が穏やかになりますね。今後は厳しさも併せ持ちながら、若者を指導する存在になってくれることと思います。



力を合わせて作り上げる達成感
まずは自分の仕事を着実に

やりがいを感じるの、苦勞して作ったものになる時。何人も職人が力を合わせて一つの製品を作り上げる達成感、ものづくりならではの。特に同社の場合は一つの製品が完成するまでに多くの工程があるため、「一つ工程が前に進むたびに達成感がある」とうれしそうに話しました。

決まった製造ラインで規格製品を作る工場とは違い、逢限製作所の製品はいわば「手作り」。どんなに巨大な構造物も、職人一人一人の手仕事の集合体です。「ゼロからものを作り出すっていいか...部品の一つ一つにさえ、作る人のこだわりが反映される。それってすごく素敵なことですよ！逢限製作所の魅力です」と興奮気味に話す穴戸さん。その目は、発泡スチロールや木材から大好きな車の形を切り出していた少年の頃のように、キラキラしています。「この溶接はあの人のように、この先輩はこんなふうにつけるんだな、とか、やっぱり個性があるので。」
入社時に溶接部門を希望した穴戸さんですが、現在は製缶部門の仕事をしながら少しずつ溶接を覚えている段階。今後経験を積み、資格を取得して本格的に溶接工への道を歩みます。今は少しでも上達しようと、朝早くに会社へ来て完成した納品前の製品を見ていると話します。「溶接には遊び心が必要だ」という先輩の名言もあるといい、「そんなふうに見えるようになりたい」と笑顔を見せました。

溶接にも個性が映る
スキルアップ目指し鍛錬あるのみ

す。図面を読み解くにもまだ苦勞することもあるといい、「頭の中はもう本当に、毎日ぐるぐるフル回転」と笑いながら、好きな仕事に就いているという充実感が伝わってきます。

「一度は作ってみたいと思うものは何ですか」と聞いてみると、「まだまだそんなことを言える段階ではないので...」と控えめな穴戸さん。今はまだ、自分が行った製缶や溶接を次の工程に回す前に先輩にチェックしてもらわなければならないが、「まず自分の工程を完全に任せてもらえるようになるのが目標」。大きな目標を掲げるのは苦手で、目の前の仕事に誠実に取り組む毎日。おまじないの「昨日より今日」を、日々言い聞かせて。



後輩へメッセージ

技術力は「あきらめない心」についてくる！

17年間、販売の仕事をやってきた自分がまったく畑違いの製造業に入りました。どの仕事も素晴らしいけれど、「手に職を持つ」ことの魅力を日々実感しています。私は一度他の業界で働きましたが、「憧れ」や「やってみたいこと」を素直に考えれば就きたい職業が見えてくると思います。社会人として大事なことは、体力・気力・努力。入社時には誰でも技術力はありませんが、それを伸ばすのは「あきらめない心」です。チームでものづくりをする仕事は楽しいし、なんともいえない達成感がありますよ。

オフショット

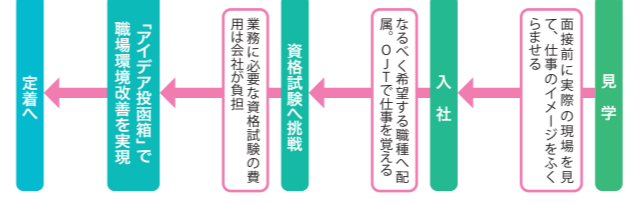


今もときどきバンド活動
ギターはカスタマイズ

高校時代に友だちとバンドを組みました。20代の頃が一番よく集まっていた、お金を出し合って電子ドラムセットを買い、スタジオを借りて演奏していました。ほとんどコピー演奏でしたがメンバーの好みバラバラで、洋楽ロックから邦楽ロック、Jポップとそのときの気分次第(笑)。今はそれぞれ家庭を持ったりして忙しく、なかなか集まれなくなりました。楽器はギターをやっていましたが、花形のリードギターにはめっちゃくちゃ上手な友だちがいたので自分はバックアップ担当。8台ほど持っていたギターを、全部自分好みに塗装したりパーツを変えたりしていました。そういえば昔は車のカスタムにも凝ったし、やっぱり手を動かすのが好きなんですよ。

定着のポイント
働き方改善へアイデアを募集

入社後は現場でのOJTを通して仕事の流れや機械・道具の使い方、安全管理を習得。計画的に資格取得に挑戦させ、費用は全額会社で負担します。「アイデア投函箱」を設置して職場環境や働き方への要望を受け付け、実際に、業務の効率化や時間短縮を実現しました。



採用担当者の声



専務取締役
大場 國衛さん

好奇心が人を伸ばす
興味を持って取り組もう

AIが発達していく中でも、必ず人の手でなければ出来ないことがあります。これこそが当社の強みであり、「オンリーワン」を目指す姿です。「好きこそもの上手なれ」ということわざは真実です。仕事場や生活の中で、旺盛な好奇心で多くに興味を持つ人は伸びていきます。先輩が豊富な経験から伝える言葉に耳を傾け吸収し、自分なりの方法や考えを培ってほしいです。

仕事
図鑑

CASE 02

三和工業株式会社 (石巻市)
製造一課
松瀬 雄斗さん (23歳)
Matsuse Yuto



加工機に速度や出力を入力する



フォークリフトで材料を加工機へ載せる



材料を運ぶ天井クレーンを操作



三和工業

チームの一員としての誇りを胸に
機械加工の「出だし」を担う



レーザー加工の仕上がりを
チェックする松瀬さん

のどかな田園地帯に建つ
抜群の精度を誇る機械加工工場

なだらかな山を背に、目の前には田園風景が広がるのどかな場所に三和工業株式会社石巻工場があります。機械加工や板金、溶接などを主な事業とし、精度の高さと優れた技術力でクライアントの厚い信頼を得てきました。2022年と23年を合わせて8人の新卒者を採用するなど、若手社員が多く活躍していることも特徴的です。

さまざまな設備が並び材料が積み上げられた工場の中で、ひととき大きな機械の前に立っていたのは、松瀬雄斗さん。機械はレーザー加工機で、中では巨大な鉄板に穴をあけたり切断したりといった加工が自動で行われていきます。外側に取り付けられたモニターには、レー

若手もベテランに提案できる
フラットな関係性に感動

松瀬さんは入社2年目で、レーザー加工機のオペレーションと、加工機に指示を与えるためのプログラミングを担当しています。機械加工の初期の工程で、曲げや溶接、組み立て、塗装といった作業の前段階にあたります。2年目にして技術力が必要な作業を任されているのは、同業他社で約4年の勤務経験があったから。

転職先を探していた松瀬さんは、ユニークなホームページに一目ぼれたことと、実家から近いことで興味を持ったそう。決め手となったのは、見学に訪れた時に見た光景。「業務の効率と品質

で、生産性や効率性が良いなどメリットが多いことが分かり納得できました。徐々に仕事に慣れると、同社では一人一人に仕事の効率性を追求する習慣が浸透しているのが見えてきました。「働きやすい会社だと思いましたね。それと、技術力の高さも驚きました。実家から5分の場所にこんなにレベルの高い企業があったなんて知らなかった」。

誰もがクライアントと直に電話OK
その場で提案を行うことも

機械加工の仕事は、基本的にクライアント側から出された図面に従って加工を行います。時にその図面が不十分であったり、矛盾が含まれていたりとする場合があると言います。そのよう

なときは、現場の担当者から相談を受けた責任者がクライアントに連絡を取り、十分に気を使いながら問い合わせしていました。しかし3年前に代表に就任した佐藤隆一社長は「技術者は誰でも直接クライアントに連絡をして構わない」と思い切った「大号令」を出しました。「業界では珍しいことだと思っています。でも、作業者本人が直接話すことで時間的ロスがなく、課題も解決しやすい。さらにこちらから、より早く美しく仕上がる方法を提案することもでき、お互いにとってメリットが多い」と語る松瀬さん。提案した方法をクライアントに納得してもらい、しかも作業効率がアップすれば、自分の自信にもつながります。

転職先でも「新人のつもりで」
疑問点は残さず聞く

子どもの頃からものづくりが好きで、段ボールを使って、草の上を滑り降りるソリや船の模型を作っていた松瀬さん。南郷高校の普通科に進みましたが、卒業後に就職したのはやはり好きなものづくりの世界、機械加工の会社でした。周りには工業高校出身者など専門知識を身につけた人ばかり。「最初は全然かなわなかったです。でもやりたくて選んだ仕事だから一生懸命勉強しましたし、技術はこっそり練習を繰り返しました」。分からないことは先輩に何度も質問し、体に染みつくまでとにかく手を動かしました。

三和工業に転職した当初も、謙虚な心がけは同じでした。レーザー加工やプログラミングは前職で経験していましたが、「会社によって機械も違うし、仕事のやり方やルールも違う。まるっきり新人のつもりで始めようと思って入りました」。慣れていたやり方が違って疑問を感じた時はうやむやにせず、「なぜこの方法をとるのか」と質問しました。先輩は丁寧に答えてくれ

を上げるために社員全員一丸となっている姿がよかった。この会社の一員になりたいと強く思っすぐに心が決まりました。その直感は正しく、入って一番印象的だったのは「若手がベテラン社員に意見を言ったり、提案したりが当たり前に行われていること」だったといえます。「より効率よく、より品質よく、より仕事しやすく、を全員が真剣に追求していて、経験年数にかかわらず誰の意見も聞いてくれる社風に感動しました」。

健康経営優良法人認定！
特に優れた取り組みの証「ブライト500」
置き型社食やヨガ教室で楽しく健康に



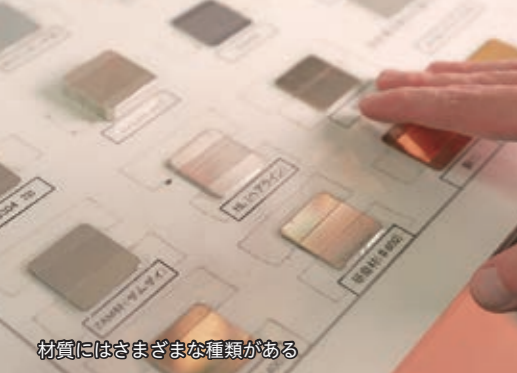
健康経営優良法人（中小規模法人部門）のうち、特に優れた取り組みが認められた全国上位500社に与えられる称号が「ブライト500」。三和工業は2023年にこのブライト500を取得しました。佐藤隆一社長は「健康経営は先代の強い願いだった」と話します。2年前、当時の会長が病に倒れた際、「社員の健康が何より大切。必ず守ってほしい」と話したことをきっかけに、取り組みを始めました。特徴的な福利厚生活動の一つは「置き型社食」。栄養バランスを考えて作られ真空包装されたお惣菜やご飯が定期的にオフィスに届き、休憩室の冷蔵庫に保管するというものです。従業員はどれでも1つ100円で購入し、電子レンジで温めるなどして好きな組み合わせで昼食をとることができます。「栄養があっておいしい」と好評です。もう一つは、社員全員が参加するヨガ教室。腰痛の訴えに対応して年に一回開催しています。就業時間内に工場をストップさせ、半日かけて専門インストラクターの指導を受けじっくり自分の体と向き合います。自分に合うポーズを正しく覚えれば、日頃のケアにも生かれます。「製造業は体が基本。心身ともに健康で働いてもらいたい」と佐藤社長は願っています。

会社概要

三和工業株式会社

所在地 〒989-4203 遠田郡美里町練牛
字26-36(本社・塗装工場)、〒987-1103 石巻
市北村字大溜池93-3(石巻工場・生産拠点)
TEL 0225-86-3286
URL https://sanwa-kg.com
代表 代表取締役 佐藤 隆一
設立 1982年2月
従業員数 45人
(2023年5月現在)





材質にはさまざまな種類がある



疑問に感じたことはすぐ相談



パソコンでプログラミング作業



機械の部品はこまめにチェック



レーザー加工後は「バリ取り機」へ



高速で自動運転するレーザー加工機

上司の声



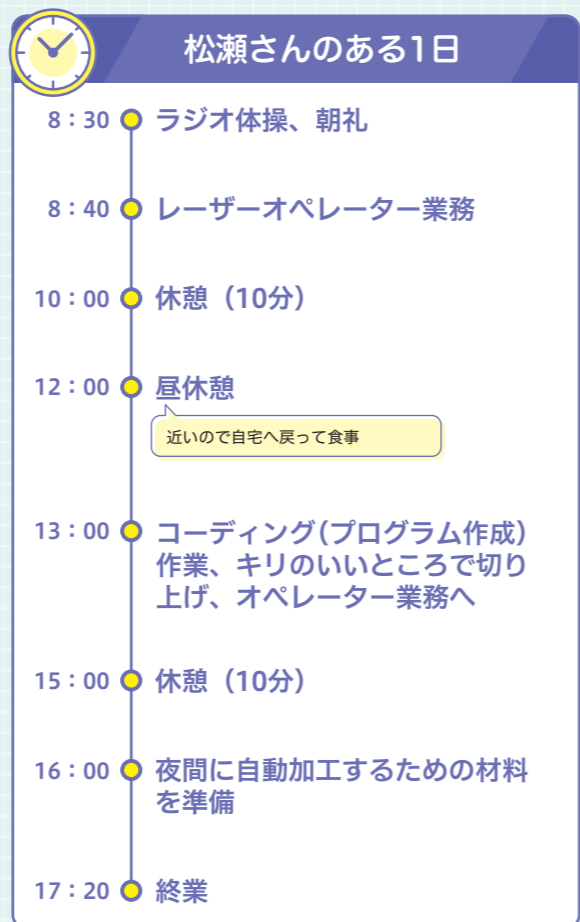
製造一課 関 義徳さん

好奇心を持って仕事を楽しむ 同世代を牽引するエースとして期待

今どきの若者らしくとても器用で、覚えも早い。一つ覚えると次の新しいことに挑戦したくなる様子で、さまざまなことに興味を持ち、仕事を楽しんでいるようですね。努力家で好感の持てる人柄で、私にとってはかわいい存在です。

同業他社から転職してきた当初は、以前の会社と似たようで異なる機械もあり、戸惑うことがあったかもしれませんが、何でも素直に受け入れ分からないことは質問してクリアしていきました。ここ数年、若い職人が多く入社している中で、将来的には世代を引っ張っていくエースとなってくれると期待しています。

当社は、年齢や経験を問わず意見を出し合うことで成長してきました。現社長は若くバイタリティに満ちています。松瀬くんも自分の力を存分に発揮して、しっかり付いてほしいです。



後輩へメッセージ

経験は関係ない！ 努力が報われる仕事

工場見学に行けば会社の雰囲気がよく分かりますが、全部に足を運ぶのは難しいときホームページも参考になります。希望する業界の会社をいくつか見比べてみると、自分に合う会社が見つかるかもしれません。製造業は工業科と決めつけず、普通科の人も興味があれば挑戦してほしい。僕は普通科出身ですが、この仕事がとても好きです。最初は知識量に差を感じますが、努力次第で必ず追いつけるし、助けてくれる人も必ずいます。年齢も経験も関係なく働ける業界だと思えます。

オフショット



家での相棒、癒しの存在 ゴロゴロと喉を鳴らす「ゴロ」

小さい頃から家にはずっとネコがいて、もはやネコのいない生活は考えられません。今飼っているのは7歳のオスで名前はゴロ。保健所から引き取ってきたとき、なでると喉をよくゴロゴロと鳴らしたので、家族みんなが「名前はゴロだね」と笑って決めました。最初は小さくて痩せた体でしたが、家族中で甘やかしてごはんをたくさんあげるせいかな今は少々太り気味です。仕事から帰ると迎えに来てくれるのがかわいいですね。疲れている日はゴロをなでると元気になれるし、気持ちよさそうに寝ている姿を見るとこちらも癒されます。ずっと長生きしてほしいです。

レーザー加工以外も貪欲に学び 会社にとって価値ある人材に

松瀬さんが担当するレーザー加工の段階では、

ものづくりには失敗はつきもので、松瀬さんもミスによって不良を出した経験は「もちろん、あります」。三和工業ではミスが起きた際にしっかりと原因を明らかにして報告書を作成し、同じ工程上の各責任者に確認してもらい、最後は社長に自分で提出します。「社長は優しい人ですが、すごく緊張します。でも再発防止のためにミスの検証はとても大事なので」と松瀬さん。重要なのはミスした経験を次に生かすこと、製造業の鉄則です。松瀬さんがこだわっている点は「スピード」と「バリ(穴などの周りに付着する金属の残留物)の少なさ」。レーザー加工は製造工程の初めにあたるため、ここで時間のロスがあれば後の工程に大きく響きます。「特に曲げや溶接といった人の手による加工は、焦るほどミスや不良が起きやすい。納期まで余裕のある状態で渡して、安心して作業してもらえるようにしたい」と松瀬さん。そのために、加工機が動いている間に次のプレートを用意したり、終わればすぐ入れ替えたりとできる限り効率を上げます。また、加工後にバリが多く残ると、次の工程でサンダーがけなどの手間が発生し効率下がります。なるべくバリを出さない工夫も。これは加工機の設定や出力の設定を、材質や厚みごとに調整することで行います。後の工程の担当者から「助かったよ」と声をかけられると「褒められたようでうれしい」とはかみません。

より早く、より美しく 後工程が仕事をしやすい工夫を

まだ完成品の形は見えませんが、だからこそ「出来上がった製品を見ると、しみじみ自分が携わったことの実感が湧く」と話します。入社前の工場見学で強く感じた「この会社の一員になりたい」という願いが、叶った気持ちになるとも。今後の目標は、レーザー加工やプログラミングの技術を究めること。プログラムを作成するには、完成形から一枚の平面に展開する作業が必要になります。ここは腕の見せ所。どこを切断して展開するか、どこを溶接しどこを曲げるのか、スムーズに加工できるベストな形は……機械の性能や作業効率も考え、併せて知恵を絞ります。スキルを磨くには他の工程の仕事をもっと知る必要もあります。「いつか『難しい製品も松瀬なら任せられる』と言ってもらえるようになりたい。会社にとって価値のある人材になれるように努力します!」。やる気に満ちた笑顔を見せてくれました。

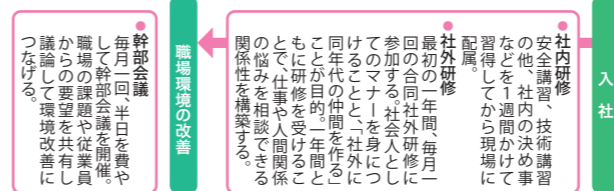


後輩からも意見が言いやすい社風

定着のポイント

社外での研修も継続的に実施

スムーズに職場になじむための準備として、入社時に社内、社外でしっかりと研修を実施します。また部署ごとの責任者が定期的に会議を開き、課題を共有したり従業員の声を経営陣に届けたりといった取り組みを行っています。



採用担当者の声



代表取締役 佐藤 隆一さん

話しベタでもいい 情熱ある人材求む!

面接で見ると「心の中に熱いものがあるか」。上手に話さなくても、特別にほがらかでなくても、どこか光るものや情熱のある人は分かるものです。分かるまで、話を聴くようにしています。物事に熱中したり興味を掘り下げてとことん追求したりするのが好きな人は、この業界に向いていると思います。ものづくり好き、集まれ!